

第二部「障害のある学生のキャリア教育・就職支援についてのセッション」

日時：平成 26 年 6 月 3 日（火曜日） 13 時 20 分から 16 時 00 分

第二部「多様な学生に対応したキャリア教育・就職支援情報の提供」のプログラムの一つとして、「障害のある学生のキャリア教育・就職支援についてのセッション」を実施した。

今年度は、就労移行支援を行なっている（株）Kaizen と障害のある学生について積極的な取り組みを行なっている富山大学からパネリストを招き、キャリア教育・就労支援の事例の紹介およびパネルディスカッションを行なった。

■司会■ 西村 優紀美氏

（富山大学 学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室長
／保健管理センター 准教授）

■事例紹介■

- ・「障害のある学生のキャリア教育・就職支援」
鈴木 慶太氏（株式会社 Kaizen 代表取締役）
- ・「発達障がい学生への就職支援～連携における大学の役割～」
桶谷 文哲氏（富山大学 学生支援センターアクセシビリティ・コミュニケーション支援室 特命講師）

■セッション概要■

司会の西村優紀美氏による登壇者紹介に続き、株式会社 Kaizen 鈴木 慶太氏による事例紹介が行なわれた。

鈴木氏からは就労支援事業を行政から請け負っている企業という立場から、障害のある学生の就職や就労に関する事例を紹介いただいた。

具体的には、発達障害の学生は、ものごとには多面的な面があることを理解しにくいことがあるという事例や雇用している企業での業務内容、次のようなサポート事例などを説明いただいた。

◎雇用している企業で行なったサポート事例

- ・仕事の指示はメール、ホワイトボードを使う（静的なコミュニケーション）
- ・得意な仕事を割り当てる（ルール通り、流れ作業というような後工程の仕事）
- ・時間割を作る（本人に作ってもらう）

次いで登壇した富山大学の桶谷 文哲氏からは、富山大学で行なっている発達障がいのある学生への就職支援の概要と特徴、事例、まとめとして、大学の支援者が感じている現状と課題を紹介いただいた。

具体的には、就職活動時に障がい学生が抱える課題やその支援についての事例や、ポイントとして考えられる内容を挙げ、就職活動時期の関わり方などを説明いただいた。

◎就職支援時に考えられる支援内容のポイント

- ・ 卒論と就職活動を同時に行なう困難に対応するスケジュール管理
- ・ 問題を自己理解につなげる定期面談
- ・ 強みを生かせる職種の選択（所属学部の専門性にも拘らないようにするサポートなど）
- ・ 相談者・情報提供者として関わるように心がける（本人が納得できる選択への支援）

◎ハローワークが就職先の開拓を行なう際に、大学からお願いしたポイント

- ・ 発達障がいのある方に対する過度な不安を和らげるよう、本人の強み中心に企業に伝える。
- ・ 本人の特性を伝える。（例：抽象的指示の理解や相手の意図を読み取る事が少々苦手）

両氏からの事例紹介終了後、西村氏の司会により、会場からの質問に答える形式でディスカッションを行なった。短い時間ながら、活発なディスカッションが行なわれた。

終了後に実施したアンケートの結果、92.7%の参加者から「満足」できたとの回答があった。アンケートや質問の内容からも、発達障害のある学生の就職・就労への関心が高いことがうかがえる結果となった。

なお、当日の参加者数は280名（学校関係者 231名・企業関係者 49名）であった。

以 上